

このみやじんじや

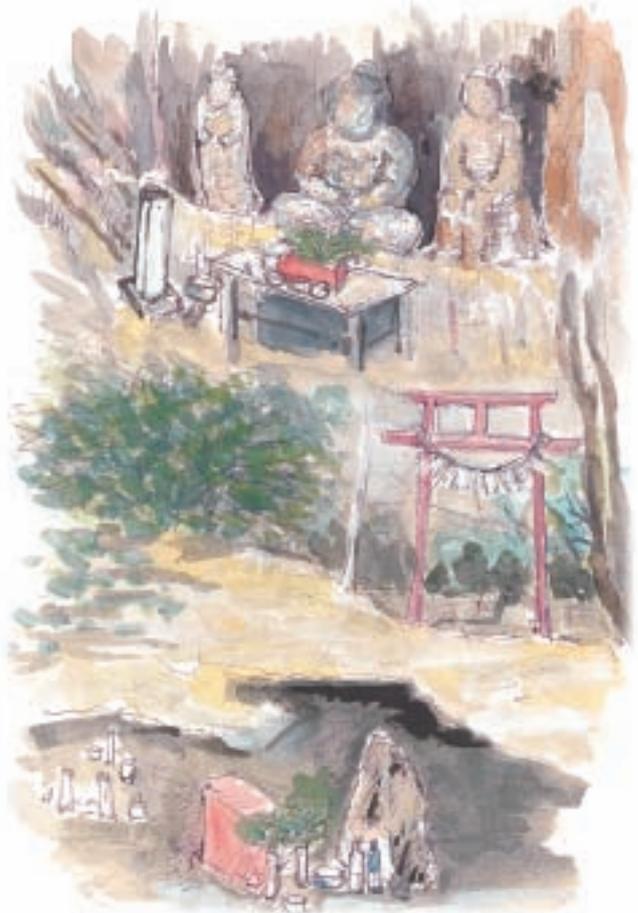
「子産恵の宮神社」由来

霧島市横川町下ノ赤水に岩堂観音(昭和57年県指定文化財)と呼ばれている磨崖仏があります。建武二年という刻銘があり、昔から近在の人々に崇められていました。ここよりおよそ2百メートル下ったところに「子産恵の宮神社」という岩窟があつて、次のような話が伝えられています。

昔々、岩堂観音様に熱心に通つてくる夫婦がいました。夫婦は、子どもに恵まれないので、「どうか子どもをお授けください」とお願いしているのです。ある晩のこと、夫婦にその観音様からのお告げがありました。

「この山奥まで足を運ぶとは感心なことである。その望みをかなえてやろう。この下にある岩窟の神様を訪ねるがよい」と。

夫婦は早速そこを訪ねることにしました。しかし、岩堂観音様まで来るのも大変なのに、その下となると、見えるのは雑木林と巨岩。どのあたりにあるのか方角も分かりません。夫婦は三日三晩捜し歩いて、ようやく大きな岩窟におられる神



様に会うことができました。夫婦の願いを聞いた神様は、「では、このアマカズラ(植物)別名アマチャヅルで作った甘酒を飲むとよい」と竹筒をくださいました。

夫婦が、その甘酒を飲んだところ、妻は身ごもり、やがて、月満ちて元気な赤ん坊が生まれました。大喜びで、大事に育てようとしたのですが、母乳がすぐとまつてしまいました。困り果てた2人は再びあの岩窟を訪ねました。2人の話を聞いた神様は、また、甘酒のはいつた竹筒をくださいました。それを飲むと、母乳が豊かになるようになり、子どもはすくすくと育つていきました。

それからしばらくして、夫婦がその岩窟へ行つたところ、神様の姿は見えず、「子どものほしい人はこの水を飲むとよい」と書かれたものがあるだけでした。2人はお礼として3つの自然石を立てて神様を祭りました。

それはいつしか、子恵みの神、お産の神、お乳の神と言われるようになり、広い岩窟の中では、今でも岩壁に沿つて流れるせせらぎの音がひそやかに聞こえてきます。

(原話「横川町郷土誌」)
文／有馬英子 絵／二石綱夫